

# 祈りのきずな 12月

## 列王記下8章～歴代誌上13章

多摩川教会（東京） 牧師 末盛 桜子（すえもり さくらこ）

### 1日(日)列王記下8章19節

「しかし、主はその僕ダビデのゆえに、…絶えずともし火を与える  
と約束された」。どんな暗闇の力が私たちに襲ってきても、イエス  
さまの十字架の贖いのゆえに、今日も私たちには絶えず聖霊の助  
けと慰めが与えられています。それゆえに、試練の中で主の十字  
架をひたすらに仰ぎ、たゆまず祈り続けましょう。

平岸教会と全皓ジョンホウシヨブ 變 牧師（北海道・札幌市豊平区）

### 2日(月)列王記下9章23節

「アハズヤよ、裏切りだ」。祈りの生活が大切な理由は、私たち  
が正しく主のみ声を聞き分けるためです。ソロモンが「聞き分ける  
心」を主に願い求めたように、悪しき霊が強く働くこの終わりの時  
代、惑わされないように、いつも聖霊の助けにあずかり主の細き小  
さきみ声を「聞き分ける心」を謙遜に祈り求めましょう。

オープン・ドア・チャペルと佐々木俊一シムンイチ 牧師、ジェームズ・E・アリソン協力牧師（北海道・札幌市豊平区）

### 3日(火)列王記下10章31節

どんな功績を残しても、心の底から主に立ち帰り、罪から離れ  
ることは容易いことではありません。しかし、今日も「み子イエスの  
血によってあらゆる罪から清められる」ことを信じ、何度でも主に  
立ち帰り、キリストの血潮によって古き自我から離れ、日々新しくさ  
れたいと願います。

平岡ジョイフルチャペルと三上章牧師（北海道・札幌市清田区）

#### 4日(水)列王記下11章1節

霊の目が開かれると「あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけ  
る獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回って」(Iペトロ5・8  
b)いるこの霊的現実を知り、祈らずにはいられなくなります。愛す  
る者たちが、日々、聖霊の助けにあずかり悪しき霊から守られるよ  
うに、教会は目を覚まして祈らなければなりません。

西野教会と岩本義博牧師(北海道・札幌市西区)

#### 5日(木)列王記下12章4～8節

信仰生活を何十年送っていても、その年月がイコール霊的成長  
に繋がるとは限りません。なぜでしょうか。それは、いつまでも自  
分の常識の範囲で聖書を読み、み言葉に従い自分自身をささげる  
ということがないからです。

札幌教会と西本詩生<sup>しなる</sup>・石橋大輔各牧師(北海道・札幌市中央区)

#### 6日(金)列王記下13章18～19節

「祈りを止めない限り、祈りは決して拒絶されることはない。祈り  
が失敗する決定的な理由は、祈りを中止することにある」(『祈りの  
精神』、P・T・フォーサイス)。今日、主がご自分の教会を見る時、祈  
りが中止されている私たちの不信仰の現実<sup>こころ</sup>に心を痛められるので  
はないでしょうか。

札幌新生教会と田中満矢<sup>みちや</sup>牧師・国内宣教師、三浦皇主<sup>こうしゅう</sup>牧師インターン、田中博協力牧師(北海道・札幌市北区)

#### 7日(土)列王記下14章26節

主が私たちの苦しみを知っておられること、これ以上の慰めは他  
にありません。今日、どれほど多くの人たちがこの主の愛を知らず、  
人生に絶望していることでしょうか。「神は、すべての人々が救わ  
れて真理を知るようになることを望んでおられます」(1テモテ2・4)。  
出かけて行って福音を宣べ伝えましょう。

小樽教会とエイカーズ愛牧師(北海道・小樽市)

## 8日(日)列王記下15章4節

この箇所から、人間が慣れや利便性、目に見えるものの誘惑におちい陥りやすいことを教えられます。コロナ以降、YouTubeで礼拝や祈禱会をどこにいてもささげることができるようになった今、もう一度原点に立ち帰り、時間をささげ、足を運び、教会に集まって霊とまことを持って礼拝をささげる信仰共同体の回復を祈ります。  
帯広教会とかわちひろこ川内裕子・かつなり川内活也牧師（北海道・帯広市）

## 9日(月)列王記下16章7、8節

アハズは主に寄り頼むことをせず、目に見える人、権力、財政に頼り主の怒りを招きました。今日、私たちもアハズの罪に陥らないように気をつけましょう。むしろ困難な時にこそ、信仰をもって主のみ言葉に従うことを選択し、全幅の信頼をもって主に祈りましょう。主は「悩める時のいと近き助け」です。  
釧路教会ときと畑田栄一牧師、マシュー・チン・メイ・マン、ダイアナ・ウォン・サン・サン各宣教師（北海道・釧路市）

## 10日(火)列王記下17章39節

知らず知らずのうちに、サタンによって心の中に人への恐れが植え付けられてしまった時、「主をおそ恐れ、主の御前にへりくだ謙り、主を待ち望め」と、主がお語りになりました。これを祈りの中で繰り返し告白し、信仰を取り戻しました。どのような状況の中にあっても、私たちが恐れ、待ち望むのは主のみです。  
旭川東光教会と藤原直之代表代務者（北海道・旭川市）

## 11日(水)列王記下18章19～22節

ユダの王であるヒゼキヤの舌先にある言葉によって、民は信仰を得、戦いに勝利しました。南ユダが減びるか、あるいは生き残るかはヒゼキヤが何を告白するかにかかっているのです。彼は「主が必ず我々を救い出してください」と言い続けていました。ここに信仰の戦いにおける勝利の秘訣があります。  
旭川教会と田森茂基牧師（北海道・旭川市）

## 12日(木)列王記下19章1～6節

主は、敵に責め立てられても揺るがないヒゼキヤ王の信仰の告白、彼の切実な祈りを聞いておられました。どんなに敵対する勢力が強く、声が大きくても、全能なる主のみ力に勝るものではありません。主はご自分を畏れ、信頼する者を必ず守ってくださいます。

那覇新都心教会と岡田有右・岡田富美子各協力牧師（沖縄・那覇市）

## 13日(金)列王記下20章5節

大病を患った時、水曜日の夜の祈禱会に40人以上の信徒たちが集まり、牧師の癒しのために涙を流して熱心に祈っていただきました。主は教会の真実な祈りを聞き、病を癒されました。主は生きておられます。主は、今日も私たちの祈りを聞き、涙を見てくださる人格的なお方です。

西原新生教会と柏本隆宏協力牧師（沖縄・中頭郡西原町）

## 14日(土)列王記下21章16節

国々にどのようなリーダーが立てられるかは、深刻な問題です。神を畏れぬリーダーたちによって、どれほど多くの人びとが今日も酷い苦しみに遭っていることでしょうか。「わたしたちが常に信心と品位を保ち、平穏で落ち着いた生活を送るため」、上に立つ者のために執り成しの祈りをささげましょう。

国分教会とマウマウタン牧師、立山泰士協力牧師、テモテ・ボード協力宣教師（鹿児島・霧島市）

## 15日(日)列王記下22章11節

「御言葉が開かれると光が射出で」（詩編119・130）、み言葉を通して聖霊は私たちに真理を悟らせ、内なる暗闇に光を照らし、真の悔い改めへと導かれます。聖霊によって、いつも教会で真理のみ言葉が語られ、私たちを真実な悔い改めへと導いてくださいますように、と願います。

鹿児島教会と田淵亮牧師（鹿児島・鹿児島市）

## 16日(月)列王記下23章2～3節

良い王さまは、み言葉をもって民を教育します。そして、心を尽くし、魂を尽くして主の戒めを民が守ることができるように熱心に努めます。私たちも朝に夕に教会に集まって祈り、み言葉を共に読み、教え、戒め、励まし合う信仰共同体となりましょう。

伊集院教会と馬渡健太郎主任牧師、麦野賦協力牧師（鹿児島・日置市）

## 17日(火)列王記下24章20節

主の怒りを招いたエルサレムとユダは遂にそのみ前から捨てられ、バビロンに捕囚民として連れて行かれました。しかし、そのバビロン捕囚の只中で、主は預言者エレミヤを通して「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている…。それは平和の計画であって災いの計画ではない」（エレ29・11ab）と語られます。枕崎伝道所と馬渡健太郎主任牧師、麦野賦協力牧師（鹿児島・枕崎市）

## 18日(水)列王記下25章9節

今も教会への迫害は、世界中あちらこちらで起こっています。そして、かつて日本もまたアジアの国々で同じことをしてきました。数年前、韓国にある堤岩里教会を訪ね、元老牧師の先生に日本の罪を悔い改め謝罪をしました。迫害下にある教会にある人びとを覚えて執り成しの祈りをささげましょう。

川内教会と立島和史協力牧師（鹿児島・薩摩川内市）

## 19日(木)歴代誌上1章

ここには、最初の人であるアダムから始まる系図が記されています。主なる神さまは、ご自分に似せて人を造られ、その一人ひとりを愛し心を配り、ご自分の瞳のように守られます。主はあなたを見放すことも、見捨てられることもありません。

みやこのじょう  
都城教会（宮崎・都城市）

## 20日(金)歴代誌上 2章13節

神さまの選びは、人間の思いとは異なります。神さまは兄弟の中で一番下の者であり、羊の番をしているダビデをイエス・キリストの先祖とされました。私たちは、この世の価値観で人を判断し決めつけてしまうことが多々ありますが、神さまの心はいつも小さく貧しき者、主を慕い求める人に向けられています。

宮崎教会と中條信治牧師・中條邦子各牧師（宮崎・宮崎市）

## 21日(土)歴代誌上 3章4節

主は羊飼いであったダビデを選び、イスラエルの第二代目の王として選ばれました。幾多の試練を通され、また、さまざまな失敗や過ちを犯したダビデでしたが、主を愛し、主に従い通したダビデによって王国は憐れみを受けました。今日も一人のキリスト者を通して、主は家庭、職場、学校を祝福されます。

青島伝道所（宮崎・宮崎市）

## 22日(日)歴代誌上 4章40節

主は、羊である私たちに最も良く適した牧草地を与え、そこで養ってくださいます。しかし、それは時に人間的に見て楽な場所ではなく、敵対する者があり、戦いの多き場所であるでしょう。それでも、真の羊飼いであるイエスさまが導かれた場所は、豊かで良い牧草地であり、そこに真の平穩があるのです。

宮崎丸山町教会と金子貢司牧師（宮崎・宮崎市）

## 23日(月)歴代誌上 5章20節

何か問題が生じた時、私たちにはそのことを誰かに訴え、口に出さないと気がすまないと思う時があり、あるいは早く行動を起こさないと、と焦る<sup>あせ</sup>気持ちが湧いてきます。しかし、主を信頼し、黙してみ前に主の助けを求めて祈ること、これこそが最も安全であり問題解決の近道<sup>ちかみち</sup>であることを覚えましょう。

児湯教会と徳淵敬尚牧師（宮崎・西都市）

## 24日(火)歴代誌上 6章16節

神に礼拝をささげる時のみならず、詠唱者たちは戦いにおいても先頭に立ち、賛美をもって民を導く大事な働きを担っていました。今日、教会では力強い賛美がささげられているのでしょうか。試練の中で小さくされていないのでしょうか。戦いの中でこそ、私たちはますます熱心に賛美をささげ信仰に立たなければなりません。  
高鍋伝道所と児玉一郎牧師（宮崎・児湯郡高鍋町）

## 25日(水)歴代誌上 7章5節

「神の御子にますイエス」（聖歌582、※）という賛美の歌詞に「きよき御戦に用いたまえ」という一節があります。この時期、イエス・キリストが全人類の罪と戦うために、天の御座を離れてこの地上に来てくださったことを思い、私たちも神の聖き戦いの勇士となって神の国の働きに用いられる者になりたいと願います。  
延岡教会と松田良明牧師（宮崎・延岡市）

## 26日(木)歴代誌上 8章1～5節

イエス・キリストの系図が、人間の罪の歴史の只中にみ子がお生まれになったことを意味しているように、この歴代誌に記されている歴史もまた救い主の誕生までの一部分として収められています。そのように読んで行く時、私たちには馴染みのない名前の一つひとつに、神のご計画があるのだと驚かされます。  
天草中央教会と南圭生牧師、松本泰博副牧師（熊本・天草郡苓北町）

## 27日(金)歴代誌上 9章27節

捕囚から帰還した人たちは、それぞれの持ち場で自分の務めを果たし、時に応じて互いに助け合い主に仕えました。そして、レビ人たちは神殿の近くで夜を過ごし、毎朝、神殿の扉を開く務めをしました。私たちの教会も毎朝扉が開かれ、執り成しの祈りがささげられています。これは何よりも大事な教会の務めです。  
インドネシア伝道と野口日宇満・野口佳奈各宣教師のために

### 28日(土)歴代誌上10章13、14節

サウルは主の言葉を守らず、悪事を指摘される度に言い訳をし、自分の罪をごまかしました。主が喜ばれるのは、「主のみ声<sup>ひびとと</sup>に聞き従うこと」です。サウルの罪は決して他人事ではありません。彼の失敗に学び、心からの悔い改めをもって主に立ち帰り、人の声でも自分の声でもなく主のみ声に聞き従って行きましょう。

国際ミッション・ボランティアの働きのために（佐々木和之氏・ルワンダ）

### 29日(日)歴代誌上11章21～23節

ダビデの勝利の秘訣は、主が彼と共におられることにありました。ダビデはそのことを誰よりも良く知る謙遜な人でした。彼が罪を犯さなかったわけではありません。しかし、失敗をするたびにダビデは自分と共にいる主に立ち帰り、主の憐れみを求めました。主は彼を生涯祝福し、イエス・キリストの先祖とされました。

シンガポール国際日本語教会（IJCS）のために

### 30日(月)歴代誌上12章23節

主の僕の周りにはいつもみ使いがいて、たとえ敵対する者が立ち上がろうとも、主は必ずその時々に必要な助け手を送ってくださいます。ダビデはどこまでもその主にのみ信頼を置き、戦いに出かけて行きました。「わたしの助けはどこから来るのか。わたしの助けは来る／天地を造られた主のもとから」（詩編121・1c～2）。

福島移住女性支援ネットワーク（E I WAN）のために

### 31日(火)歴代誌上13章1～3節

信仰生活にとって重要なことは、主が共におられるということです。礼拝をささげる時、祈る時、喜びの時も苦難の時も主の臨在があればこそ私たちは力づけられるのです。ダビデが、神の箱を取り戻すために全力を尽くしたように、私たちも心、精神、思い、力を尽くして主を愛し、主の臨在を求めようではありませんか。

プリ・キンダーガルテンスクール（インド）のために